

広報福島

発行 福島地区小学校長会

責任者 会長 岩下 聡

編集 同 広 報 部



【巻 頭 言】

子どもたちの笑顔の実現のために -52の「スタンダード」を基盤として-

福島市立清明小学校 岩下 聡

10万円をゲットして、「マーチングキーボード」を買うはずだったのだが……。

私たちは「日本教育会」の会員で会費を納めているのはご存じだろうか。「日本教育」という冊子が毎月届くのは、その会員だからである。不確かではあるが11月号であったら、冊子を読んでいたら、「論文の募集要項」が掲載されていた。論文の枚数はA4判で4枚以内である。「これならできる」と思った私は論文づくりに取りかかった。どんな内容にしようか迷ったが、「校長としての本校での取組」ならまとめられると思った。題して、「教育目標『みんなとともに 笑顔いっぱい』の実現に向けた学校経営のあり方」そして副題として「『清明スタンダード』を基盤として」とした。

内容は、3つの「変革の視点」と「清明スタンダード」と名付けた7つの実践を関連させたものとした。ちなみに、「清明スタンダード」と名付けた実践は次のとおりである。

【清明スタンダード】

- 1) 「資質・能力の育成(横の見方)」
- 2) 「日課表の工夫(午前5校時)」
- 3) 「通信票年2回制」
- 4) 「いまここ学習室(自学の場)」
- 5) 「少人数指導の選択(1学級2担任制)」
- 6) 「担任1年制(持ち上がりなし)」
- 7) 「学生ボランティアの活用」

補足をすると、「午前5校時」の日課表は今年度で3年目となった。「早く児童を帰さない限り担任の事務時間を確保することはできない」という「私の信念」で行っている。保護者へもその意図を説明してきたつもりだが、アンケート調査をすると「休み時間が5分であること」「給食開始が遅くなること」への批判的な意見もある。救いなのは児童がすぐに慣れ、学校生活が支障なく営まれていることで

ある。ただ早く帰すだけではなく、「いまここ学習室」という自学の場を設け、学生ボランティアに個別指導をしてもらったり、退職した前職員に特設陸上部の練習を手伝ってもらったりして、「午前5校時」で生まれた放課後の時間を有効に活用している。

この論文を提出してからは、頭の中は「会長賞」を受賞するという妄想でいっぱいになっていた。今まで鼓笛演奏は4年生以上が参加していたが、練習の負担軽減を図る一方策として、今年度から5年生以上の参加とした。しかし、どうしても鍵盤ハーモニカの音量が少なくなる。そこで、「会長賞をもらったら、その奨励金にポケットマネーを少し加えて、マーチングキーボードを2台買おう。そして、学校に寄贈しよう。」と考えていた。

そして、結果発表である。ある日、封書が学校に届いた。ドキドキしながら開けてみると、結果は、みごと「落選」である。応募した論文の半数は何らかの賞に入っているようだが、私の論文は著にも棒にも引かからなかった。ちなみに、福島県で賞に入った方が1名いる。

冷静になって考えてみると、私の論文には足りないものがあつた。それは、「児童の変容」である。校長としては「働き方改革」の流れの中で「様々な改革」を行ってきたつもりではあつたが、結果として「児童の変容」へどう還元されたのか、そこが明らかにできていなかった。

さて、本校での取組を「清明スタンダード」と名付けたように、どの学校にも「その学校独自の取組」がある。地区小学校長会には52名の校長(附属小は副校長)がいるので、52の「スタンダード」があるのだろう。あなたの学校の「〇〇小スタンダード」とは何だろうか。

私は、今年度も論文に挑戦して「リベンジ」を図ろうと考えている。今度こそ「会長賞」を受賞し、妄想を現実のものにするのだ。絶対に奨励金をゲットするのだ。それは、もちろん「子どもたちの笑顔の実現のために」である。

笑顔あふれる学校に

福島市立大森小学校長 佐藤 浩昭

「子どもたちの笑顔があふれる学校にしていきたい」誰もが思い浮かべる目指す学校像でしょう。それとともに、「教職員も笑顔で過ごすことのできる学校にしていきたい」というのが、私のこれまでの信念です。先生方にも、「笑顔で授業をしましょう」「笑顔で子どもたちに接しましょう」と呼びかけてきました。そのためには、子どもたちとのやりとりを楽しみながら授業を進めることや余裕をもって計画的に仕事を進めることが求められます。しっかりとした授業力、児童理解力・対応力を身に付けていくことが必要です。もちろん、厳しく指導する場面も時には必要です。それも、普段の笑顔の姿があるから効果的なのです。

また、本校は、学年のまとめ、学年主任を重要視しています。主任を任命するにあたっては、次のような思いがあります。

- 安心して学年経営を任せられる人
- ぜひ主任を経験し、さらに成長してほしい人
- やや心配な点もあるが、立場を与えることで活躍していったほしい人

そして、任命したからには、「信じて任せる」覚悟が必要です。つい、言いたくなることもあります。緊急性のあるもの以外は、ぐっとがまんします。もちろん、ねぎらいや感謝の言葉かけは忘れずに行い、相談にものります。

自分自身、過去に、よく校長先生方から「思ったようにやっていいから」と言われてきたことが心に残っています。そう言われるとよけいに「しっかりやらなくては」「迷惑はかけられない」と気を引きしめて取り組んだものでした。本当に思ったようにやらせていただき、当時の校長先生方の器の大きさを、今になって感じています。

You play with the cards you're dealt. 「配られたカードで勝負するのさ」。スヌーピーの言葉です。今いる人材をいかに生かし、育てていくかが校長の任務と肝に銘じて取り組んでいます。

ショッカーが 仮面ライダーに勝つ方法

川俣町立福田小学校長 神尾 孝弘

国見町の安藤充輝氏（現国見町ほけん課長）と話をすることがありました。示唆に富んだ興味深い話なので、ここで紹介させていただきます。

「私たちは仮面ライダー型ではだめだと思います。仮面ライダーは、勝つのは勝つけれど、いつも苦しうに一人で戦っているからです。これでは長続きしません。それに対し、ショッカーは世界征服という一切ぶれない目標のもとに、組織で戦っています。しかも、（わっはっは！）といつも楽しそうに笑っています。職場はショッカー型の方がうまくいくと思います。

では、なぜショッカーは勝てなかったのか。それは、上司のマネジメントが悪かったからです。だから、ショッカーの構成員一人一人の主体性が育たなかった。さらに、第三者の適切な意見を取り入れる体制がなかったことも敗因です。ショッカーにこれらの要素が備わっていれば、仮面ライダーに勝っていたかもしれません。」

安藤氏が冗談まじりに笑いながら語ったこの話を、学校経営に置き換えて考えてみました。

本校には、指導力や協調性が備わった素晴らしい教職員がそろっています。そして、保護者や地域の温かい協力や支援も多くあります。私は安藤氏の話の思い出しながら、教職員の主体性を引き出し、保護者や地域からの多様な声に耳を傾けて、子どもたちのために学校経営を活性化させていく重要性を改めて認識しました。

「コロナ対策」と「教育活動の充実」の両立を図り、子どもたちの健全な成長を育むことが、今年度の本校の大きなテーマのひとつです。このテーマのもと、学校・家庭・地域が仮面ライダーの集団となり、みんなで子どもたちの成長を育む福田地区を作れたら素敵だと思っています。

あつ、すると…ショッカーはやはり勝てないか。



信頼への第一歩

福島市立余目小学校長
花輪 忠康

春の中庭、子どもたちが鬼ごっこをしています。
男の子が、私の所に来て、こう言いました。

「校長先生、ぼくの名前は？」

「M君だね。」

男の子は、満足げに鬼ごっこに戻っていきます。

M君の名前を覚えていたのは、特別なことではありません。春休み中、新設した支援学級をお母さんと一緒に見に来た子だったからです。

着任式は、コロナ対策のため校内放送。私が、「皆さんの顔は見えない。けれど早く覚える。」と話したことを覚えていて、私を試しに来たのかもしれない。このM君の試験に合格した後、彼は登校の時も、廊下ですれ違っても、私に話しかけてくるようになったのです。

このことがあってから、意識的に子どもたちの顔と名前を覚えていこうと思いました。ところが、マスクがあると顔半分は見えません。140名の名前を覚えることは簡単なことではありません。授業を参観して覚えたり、登校時に声をかけたり、昼休みに会話したりと、自分から積極的に関わるしかありません。

昨年度、私は要請訪問で、幼稚園を参観させていただきました。その時、担任の先生が、

「3歳の子も名前を呼ばれると笑顔になります。」と話されていました。名前を呼んで話すだけで、ぐっと信頼関係が増すというのです。それは、子どもだけではなく、大人も同じことです。

「K先生、遅くまでありがとうございます。」

「T先生、Sさんの発表、良かったですね。」

校長として駆け出したばかりですが、余目の子どもたちのため、先生方のために、自分にできることは何かを考え、精一杯取り組みます。

福島地区校長会の皆様、ご指導よろしくお願ひいたします。



朝の登校指導で 思うこと

福島市立大笹生小学校長
高橋 俊勝

「おはようございます！！」

毎朝、交わす子どもたちとのあいさつ。最近「皆既月食見えましたよ。」など、子どもたちからも話しかけてくれるようになりました。私にとってとても楽しい時間なのですが、子どもを待つ時間に学校の周囲のいろいろな変化に気づくようになりました。「雪ウサギが下半身だけになった。」「田に水が入り、蛙の声にぎやか。」「水鳥がやってきて蛙を狙っている。」などなど。

教頭の時には見過ごしていたことです。立場が変わって見えるようになったのです。振り返ってみると、教頭の時にはいつも学校の様々なことを走りながら見、考えていました。校長になり、立ち止って見、考えることができるようになりました。立ち止まって考えることで、より広い視野で、より多面的に、より深く、なにが子どものためなのかを判断できる、いや、判断しなければならないのだと今は思います。

4月1日、やる気と不安が入り交じった気持ちで本校に着任し、判断を迫られる場面がたくさんありました。「創立150周年どのように?」「運動会は?」判断には、的確さと素早さが求められます。これまでの自分の経験やお世話になった校長先生の姿などを思い出しながら、自分なりの判断をしてきました。でも、自分の判断に一番確信を持てたのは、先輩の校長先生、方部の校長先生からアドバイスをいただいた時でした。

変化が激しく判断が難しい時代ですが、子どもや教職員の夢や希望が実現できるよう、自分の識見を一層高めていかななくてはならないと考えています。大笹生地区及び福島市の教育の充実のため、誠心誠意精進してまいりますので、福島地区校長会の皆様のご指導をよろしくお願ひいたします。



全ては、 子どもたちのために

福島市立佐倉小学校長
黒羽 慎一

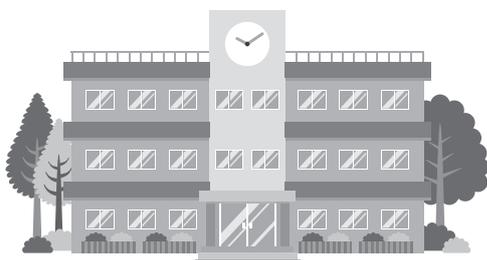
校長として赴任してから2ヶ月が過ぎていますが、「全ては、子どもたちのために」という、本校の学校経営の基本方針に基づいて、日々、自己研鑽に励んでいます。

毎朝、校門前の横断歩道に立ち、登校する子どもたちにあいさつをしています。未だに子どもたちの名前を覚えることができませんが、マスク越しの表情から、健康状況や精神状況が読み取れるようになってきました。現在は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、集団登校を控えています。したがって、車で送迎する保護者の方も多く、窓越しにあいさつをいただきます。

学校では、毎日授業中に教室を訪問し、先生方の授業や子どもたちの反応を観察しています。時には、T2として授業に参加することもあります。教頭時代になかなかできなかった経験をしています。

36年間、中学校教師として勤務してきた私にとって、入学式や始業式における異常な緊張感は並大抵のものではありませんでした。小学1年生～6年生を対象に、話をすることの難しさを初めて実感した貴重な経験でした。いかに話すスピードや言葉の表現、話す内容を分かりやすく、飽きの来ない時間で話すかが問われた時間でした。

小学校という新しい職場で、地域、保護者に支えられながら「みんなが笑顔」の学校づくりに邁進していきたいと思っています。併せて、地区校長会の先輩方のご助言とご指導をいただきながら、職務を全うしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



何のために ～覚悟と決意～

福島市立平石小学校長
吉川 信夫

着任式、始業式、入学式。4月6日は子どもたちに会える待ちに待った日です。

着任式、始業式で瞳を輝かせ、真っすぐにこちらを見つめる子どもたち。そして、ひと言ひと言に頷く子どもたち。陰りのないピュアな子どもたちの姿に触れ、こちらの覚悟が問われているような気がしました。

そして入学式。学級担任に先導され、恥ずかしそうに入場してきた4名の新入生。呼名での大きな返事に心が大いに揺れました。新鮮な1日となりました。

あの日から、2箇月近く経ちました。毎朝、元気に登校し、きちんと授業に臨む子どもたち。目の前の子どもたちを、少しでも高みに上げようと励む学級担任。そんな担任を支えようと縁の下の力よろしく動いてくれている教職員。「何でも言ってください、みんなでやるから」と言ってくださったPTA会長と地区の区長さん。その言葉は、運動会や資源回収、プール清掃などに、目に見える形で次々と実現しました。

コロナ禍の中、多くの方々の力が結集して学校生活を送られていることに感謝しております。何の問題もないように思えます。そう見えます。

しかし、ここからが大切なのだと思います。校長として何を問題としてとらえ、何をすべきなのか、その覚悟と決意が問われています。予断を許さない新型コロナウイルス対策や働き方改革、令和の日本型学校教育の実現など、校長が自らの課題としなければならないことはたくさんあります。責任の重さを感じながらも、なおかつ前に進んでいきたいと考えます。

今後も諸先輩方から、ご指導、ご助言いただき、職責を果たせるように努めてまいりたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。



校長室はみんなの部屋

福島市立庭塚小学校長
松田 倫明

「(担任の) S先生のお部屋はないのに、どうして校長先生のお部屋があるの？」

学校探検で校長室に来た1年生の質問です。

「校長先生は学校に一人しかいないし、お仕事もたくさんあるから一人のお部屋をいただいているんだよ。」

1年生が校長室を出て行った後、急な質問に答えを準備していなかったとはいえ、校長室を「自分の部屋」のように回答してしまったことが恥ずかしく、子ども達に申し訳なく思い、休み時間にもう一度校長室に来てもらいました。

「校長室はね、校長先生一人のためのお部屋じゃないんだ。先生方が会議をしたり、お客さまが来られたときにお話をしたりする部屋でもあるし、学校で預かる大切なものを保管する部屋でもあるよ。会議用のテーブルやお客様用のソファが置いてあるし、ほら、金庫も置いてあるよ。」

こんなお話で、校長室は「みんなの部屋」だと理解してもらえたようでした。

以来、学年を問わず、家族の紹介、友達の話、勉強の相談、休み時間に捕まえた虫やカナヘビの自慢など、たくさん子ども達校長室に顔を出してくれました。話の内容によっては学級担任や児童養護施設の担当の先生に報告や相談をして対応することもありました。子ども達の校長室訪問からさまざまな問題の早期発見・早期対応に繋がることを実感することができました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため新しい生活様式に従って生活している子ども達の中には、今までにない不便や不自由を感じながら生活している子が多いことでしょう。ストレスからくる様々なサインをいち早くキャッチするためにも、子ども達が訪問しやすい「みんなの部屋」となる校長室づくりを今後も進めていきたいと考えております。

レコードと私

福島市立下川崎小学校長 大内 伸一

私は音キチだ。音キチは昭和か。死語か…。でも音キチ=音のキチガイ、サウンド狂の資質は今も変わることなく、私の中にある。

昔の車は車種によって音が違った。パブリカとサニーとセリカの排気音は違っていた。カメラのシャッター音のカシャがたまらなくかっこよかった。手巻き式腕時計のカチカチが好きだった…と音の好みの話はずきない。

その音キチ君、歳を重ねてどうなったのか？今ではキチガイの部類が多少整理されて、弦楽器と、オーディオの音に特化した。しかし、所詮キチガイはキチガイ。それらの音についての好みは偏りと激しさを増すばかりである。とくにオーディオで再生される音については、自分の好みか否かで至福の時間となることもあれば、怒りの日になってしまうこともある。恥かし気もなく私の音の好みを言わせていただければ、「リアルなステージが再現され、演奏者がそこに見えるような音」が理想である。それに会える確率が高いのはレコードを再生するときである。現代では、音楽の再生はCDすらも時代遅れと言うが、私はいまだにCDの音になじめない派である。

デジタルの音は、冷たいとか堅いとか評されるが、私の耳にはもやっとする、不明瞭な音に聞こえる。何より、人工的で嘘くさい。とても生身の人間の音楽を聴いた気がしない。レコードだって盤に刻まれた作り物であろう。でも、レコードは聴いていると本当にそこに演奏者が見えてくる。それを会場の5列目で聴いている感覚になれる。つまり、私を上手にだましてくれるのがレコードなのである。パチパチノイズは、ほんの数秒で気にならなくなる。ご家庭に眠っているレコードがあるなら一度だまされたいと思って針を下ろしてみたい。レコードは最強である。

ととのう

福島大学附属小学校副校長 山本 秀和

「ととのう」という感覚をご存じでしょうか？サウナと水風呂に交互に入る温冷交換浴をすることで血行が良くなり、脳に酸素が行き届き、超リラックス状態に入ることです。普段味わうことのない多幸福感、浮遊感です。ふわふわします。「ととのう」感覚を味わいたくて、休日は感染対策を施している近隣のサウナに通うようになりました。サウナにおける一連の流れを「サ道」というそうです。サウナの効能は他にもあります。

① 免疫力が上がる

一般的に体温が1度上がると免疫力は5～6倍強化されるといわれています。サウナに入ると短時間で体温が一気に上昇し、免疫機能が高まります。

② 肩こり・腰痛が治る

サウナに入ると、筋肉の緊張を緩和し、常に発汗と血管の拡張が望めるため、乳酸を取り除き、血行が良くなるので、肩こり・腰痛が治ります。

③ 精神が安定する

高温のサウナで交感神経が刺激され、低温の水風呂で副交感神経を刺激されると、自律神経が整います。発汗とリラクゼーションは毒素排出だけでなく、不安も取り除くのにも役立ちます。そして、眠りがとても深くなります。

④ 美容（美肌）効果がある

サウナに入ると短時間で体温が一気に上昇し、新陳代謝がアップします。また、水風呂に入ることにより、体内に溜まった有害物質を取り除くこともできると言われています。

感染状況が落ち着いているときに、県内のサウナ場で、何名かの地区の校長先生方にお会いすることがありました。会話を控えて、目だけで挨拶を交わすと、一気に距離が縮まった気がしました。

広報部だより

福島地区広報部長 福島市立庭坂小学校長 吉田 牧子

福島地区広報部は、会員相互の理解と連携を深め、地区小学校長会活動を活発に推進することを目的として、以下の編集方針のもと、年4回「広報福島」を発行する予定です。

- 1 校長職の機能の向上及び地区校長会の活動に寄与する内容を目指す。
- 2 課題性、適宜性、必要性、話題性に富んだ魅力ある広報誌を編集する。
- 3 全会員執筆を原則に、親しみと活力のある広報誌を編集する。

以上の編集方針を踏まえ、広報誌の内容は、「巻頭言」「学校経営の一端」「提言（特別寄稿）」「特集」「新会員紹介」「趣味・随想」「各部だより」として、学校経営に資する内容を基本として会員の皆様に原稿の執筆をお願いしております。

特に「特集」は、昨年度よりテーマを一新し、県小学校長会広報部の特集テーマを受けて、「質の高い教育の実現と教職員の資質向上」と設定し、各学校の取組を紹介してまいりました。「学校経営の一端」とは異なる視点での会員の皆様の経験や識見について知ることのできる貴重な機会になると期待しています。また、今年度の「提言」は、川俣町教育委員会教育長の特別寄稿を、9月発行の第2号に掲載する予定です。

今年度も、新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの学校経営・運営となりますが、この「広報福島」が、会員がともにこの難局を乗り越えていく力の一端になることができたら幸いであると思っています。

今年1年間、会員の皆様、どうぞよろしくお願いたします。

編集後記

感染症対策と教育活動との両立が求められる日々ですが、子ども達を笑顔にすることが教育の基本であることを改めて実感するとともに、新会員の皆様の言葉に、また頑張ろうと励まされました。お忙しい中、玉稿をお寄せくださった会員の皆様、ありがとうございました。

福島市立庭坂小学校長 吉田 牧子